

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年1月

2007 平成19年 新年会

日時 1月13日(土) 午後3時より

場所 神楽坂エミール(教育会館) TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂」下車 赤城神社隣り



寺田 弘名誉会員(93歳)による乾杯！



にぎやかな会場風景



ご挨拶は 6 月開催の長野大会実行委員の皆さん

法人化なった日本詩人クラブの新生一年目の新年会です。福岡、福井を始め関西・長野からもおいでいただき、出席者は100名を越えました。

しかし、慣れ親しんだ「神楽坂エミール」での大きなイベントはこれが最後になりました。3月末で閉鎖されます。開会に先立ち、職員に花束を贈呈して長年のご協力に感謝の意を表しました。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年2月

2007 平成19年2月 例会 担当理事：北岡善寿

日 時 2月10日(土)午後2時～

場 所 神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂駅」下車 赤城神社隣

内 容

会員による詩の朗読と小スピーチ



結城文氏



北村愛子氏

講演 日本詩人クラブ創設期の詩人たち「豊田実」



講師：石川重俊氏

講師プロフィール：1915年仙台市生まれ。
九州大学卒。ダンテとシェリーの研究。
訳書に『縛を解かれたプロメテウス』がある。

講演 詩におけるウソとほんとう



講師：中原道夫氏

講師プロフィール：1931年生まれ。
蔵原伸二郎に師事。「猗」発行人。「柵」「日本未来派」同人。
小説に『野球先生』など。
詩集に『だから女よ』『わが動物記、そして人』など。



会場風景。100名近い皆さんにおいでいただきました。ありがとうございました。

2007 平成19年 2 月 オンライン現代詩作品研究会 担当理事：村山精二

日時 2007年 2 月 3 日(土)午前10時～4 日(日)午前10時

登録者のみで日本詩人クラブメーリングリスト上で開催

提出作品：「近未来」斎藤幸雄／「失ったものと得たものと」北村愛子／「そら」水崎野里子／「凍てついたトマト」芳賀稔幸／「物乞い」サーカー和美／「タバコ」くらもち さぶろう／「ふれる」蒼わたる／「夕餉」小野正和／「広告」佐藤孝／「せけんさま」長谷川 忍／「一輪挿し」田中健太郎／「GOOD-BY 宇宙スケール」岡三沙子の12人、12作品。発言者は14名、総発言数は110件にのぼる盛会でした。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年3月

2007 平成19年3月 例会 担当理事：北岡善寿

日時 3月10日(土)午後2時～

場所 神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂駅」下車 赤城神社隣

内容

1. 会員による詩の朗読と小スピーチ



安彦志津枝氏



有賀勇氏



2. 講演



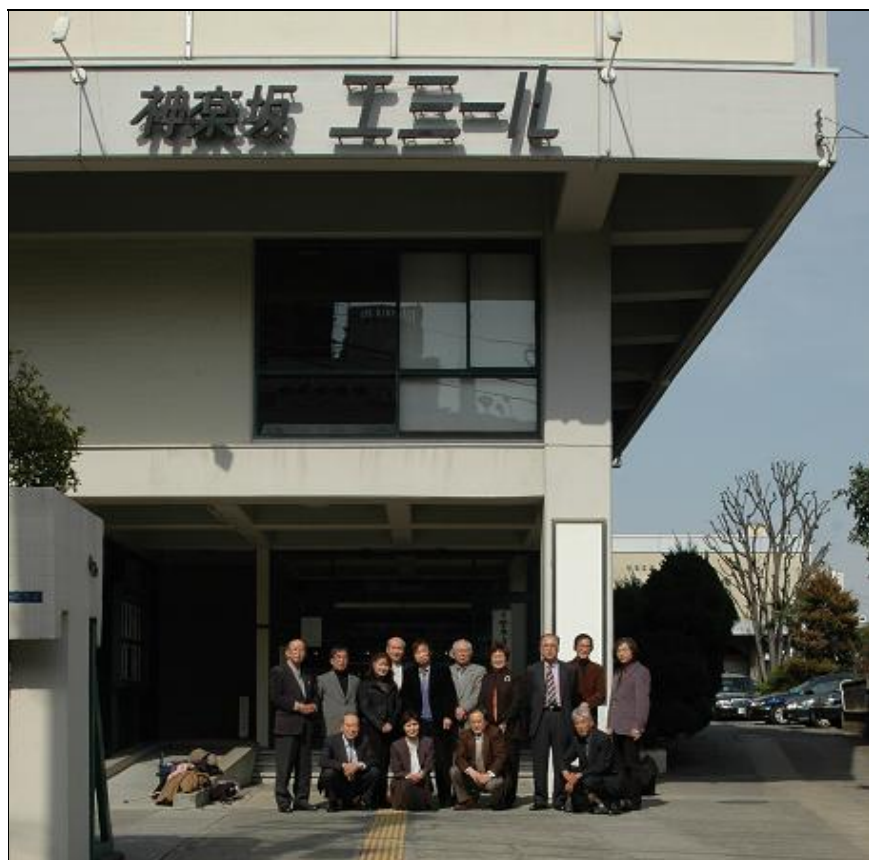
日本詩人クラブ創設期の詩人たち「中西悟堂」
講師：西岡光秋氏



アルス・ポエティカ
講師：河底尚吾氏



会場風景。100名ほどの聴衆に向かって講演する河底正吾氏。



3月末で閉鎖される「神楽坂エミール」をえるのも今日が最後。
理事の記念撮影を行いました。

2007 平成19年 3 月 研究会 担当理事：川中子義勝

日時 3月3日(土)午後2時～

場所 神楽坂エミール（教育会館）TEL 03(3260)3251

地下鉄東西線「神楽坂駅」下車 赤城神社隣

講演 「詩と美術」



講師：天彦五男氏

<当日のリーフレットより>

西脇順三郎、金子光晴の両巨人の絵は面白い。小熊秀雄など画家にいろるべきか詩人にすべきか迷う人もいる。川路柳虹や宗左近など美術評論家として活躍した人もいる。

美術についてはギリシャや中国、インドなど西東から語れば長い。どこかに昔書いたが<美>は<微>だ。詩も漢詩や和歌や俳句、狂歌、川柳などに及ぶと大変だ。

要は禅問答みたいに語ることができればいいのだが、わずかな時間を共有してなにか得るものがあれば幸いだ。（天彦五男）



会場風景。30名ほどの皆さんにおいでいただきました。ありがとうございました。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年4月

2007 平成19年4月 3 賞贈呈式 担当理事：中原道夫、田中眞由美

日 時 4月14日(土) 午後2時～

場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館) 6階伊吹の間

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25 TEL:03-3261-9921 FAX:03-3261-9931

地下鉄有楽町線・南北線 市ヶ谷駅A1-1出口

地下鉄新宿線 市ヶ谷駅A1-1 A4出口

中央線(緩行)市ヶ谷駅 *各出口から徒歩約2分

贈 呈 第40回日本詩人クラブ賞 麻生直子 詩集『足形のレリーフ』
第17回日本詩人クラブ新人賞 岡野絵里子 詩集『発語』
第7回日本詩人クラブ詩界賞 石原 武 著 『遠いうた 拾遺集』



受賞者紹介・高良留美子氏と第40回日本詩人クラブ賞受賞・麻生直子氏



受賞者紹介・石原武氏と第17回日本詩人クラブ新人賞受賞・岡野絵里子氏



受賞者紹介・林立人氏と第7回日本詩人クラブ詩界賞受賞・石原武氏



会場風景。170名近くの方がお祝いに駆けつけてくださいました。

祝賀パーティー 17時より同会館5階穂高の間



93歳になった元会長・寺田弘氏の乾杯の音頭でスタート。



なごやかな会場の一齣。2時間ほどの懇親でした。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年 5 月

2007 平成19年 5 月 第58回総会 担当理事：中原道夫、田中眞由美

日 時 5月12日(土) 午後2時～

場 所 東京大学駒場Iキャンパス 18号館ホール(1F)

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内 容 物故詩人への黙祷

2006年度経過報告、決算報告、監査報告

2007年度事業計画(案)、予算(案)、規約一部改正(案)、永年会員顕彰、新理事会承認・

他

懇親会 午後5時より同会場にて 会費5,000円



中村不二夫会長挨拶



各担当理事の経過報告。議長団は野澤俊雄氏、小沢千恵氏。



会場風景。プロジェクター始め、音響、照明とも整った設備でした。

東京大学駒場Iキャンパスで初めて開催された総会は、2006年度経過報告、決算報告、監査報告、2007年度事業計画、予算、規約一部改正、新理事会など全て執行部原案通りに承認されました。

また、永年の念願だった事務所も契約が済んだことが報告され、会場は大きな拍手に包まれました。住所は次の通りです。

〒162-0808 東京都新宿区天神町71 宇野ビル4階

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年6月

2007 平成19年6月 長野大会 担当理事：五喜田正巳

日 時 6月9日(土)午後2時～5時15分

場 所 ホテル国際21長野 1F「藤の間」

J R長野駅善光寺口下車徒歩15分

〒380-0838 長野市県町576 TEL 026-234-1111(代表)

<第1部>

1. 開会行事

- (1) 開会の言葉 大会実行委員長・有賀 勇
- (2) 挨拶 日本詩人クラブ会長・佐久間隆史
- (3) 祝辞 長野市長・鷲澤正一
- (4) 報告 日本詩人クラブ理事長・北岡淳子
- (5) 日本詩人クラブ役員紹介

2. 日本詩人クラブ賞、日本詩人クラブ新人賞受賞者の詩の朗読

第40回日本詩人クラブ賞『足形のレリーフ』より 麻生直子

第17回日本詩人クラブ新人賞『発語』より 岡野絵里子



3. 小講演「長野県の先達詩人を語る」

- (1) 高橋玄一郎について...柳沢さつき
- (2) 小出ふみ子について...高森忠義
- (3) 龍野咲人について.....宮崎 亨
- (4) 殿岡芳樹について.....山本勝夫

<第2部>

4. 講演「川端康成と信州」 講師：川端康成文学研究会理事・川俣頼従氏



5. 会員の自作詩朗読

吉久隆弘(岡山)、大井康暢(静岡)、天彦五男(千葉)、中井ひさ子(東京)、川上明日夫(福井)、宮沢肇(長野)

6. 次期地方大会代表者によるアピール

7. 閉会のことば 日本詩人クラブ次期担当理事・諫川正臣

懇親会 午後 5 時30分～ 7 時40分

場 所 同会場 千歳の間



友情出演 フルートアンサンブルながの21主宰・中野清史さんご夫妻



アトラクション 伝統芸能 新諏訪御神楽

文学散歩 長野市立博物館～松代城址・真田邸～真田宝物館・文武学校～北野美術館～小布施
葛飾北斎館・街並み散策

日 時 6月10日(日)午前8時30分～午後3時



真田宝物館にて勢揃い。お天気もなんとかもってくれました。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年7月

2007 平成19年7月 例会 担当理事：川中子義勝

日 時 7月14日(土)午後2時～5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス・セミナールーム
京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内 容

会員による詩の朗読と小スピーチ



田中美千代氏

田部武光氏

新会長・理事長の講演



北岡淳子理事長

佐久間隆史会長

北岡淳子理事長は「運動体としての日本詩人クラブ——法人化後の事業を中心に」、佐久間隆史会長は「詩と東洋の叡知——シュベルヴィエルの一詩句をめぐって」という表題の講演でした。



会場風景。台風４号が近づく中、65名もの方においでいただきました。



懇親会。立食ながら本格フランス料理でした。

2007 平成19年 7 月 研究会 担当理事：原田道子

日時 7月7日(土)午後2時～5時

場所 東京大学駒場Iキャンパス 18号館4F コラボレーションルーム1 電話 03-5465-8760

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内容 座談会 「詩界」をめぐって



パネリストは左から神品芳夫(第5回詩界賞受賞)、石原武(第7回詩界賞受賞)、川中子義勝(「詩界」前編集長)、中村不二夫(「詩界」元編集長)の各氏。コーディネーターは原田道子氏。

<当日のリーフレットより>

雑誌「詩界」復刊第1号は、創立50周年事業（2000年）「日蘭文化交流記念号」として刊行されました。（中）日本詩人クラブ創設期の使命・精神に立ち戻る、雑誌「詩界」の刊行、詩界賞の選定、研究会の実施は、文化的共有財産として成果を挙げています。

「詩界賞」受賞者をパネリストに迎えての座談会は、有限責任中間法人として新たに踏み出した（中）日本詩人クラブの柱である雑誌「詩界」の顕彰と、創立60周年に向けての展望を拓くこととなるでしょう。

*雑誌『詩界』の変遷と「詩界賞」の意義など、フロアーからの意見も多く、活発な議論が交わされました。



会場風景。40名ほどがおいでくださいました。



懇親会。明るい会場でなごやかな懇親でした。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年9月

2007 平成19年9月 例会 担当理事：川中子義勝

日 時 9月8日(土) 午後2時～5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス 電話:03-5790-5931

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内 容

会員による詩の朗読と小スピーチ



熊沢加代子氏



田川紀久雄氏



平野成信氏

詩界賞受賞者・名誉会員による講演 〈日本の詩を考える〉



佐藤伸宏氏「口語自由詩の成立をめぐる諸問題」(第6回受賞者)



高橋良雄氏「日本文学の風土」（名誉会員）



会場風景　美しい緑を背景に60余名の皆さんが拝聴しました。



18号館オープンスペースでの懇親会にも40名ほどの皆さんが参加。乾杯！

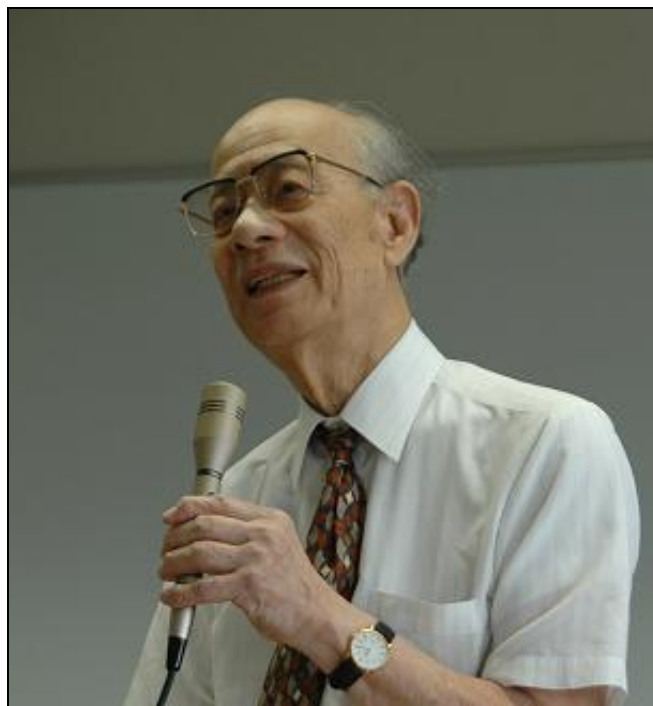
2007 平成19年 9 月 研究会 担当理事、コーディネーター：原田道子

日 時 9 月 1 日(土)午後 2 時～ 5 時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス 18号館 4 F コラボレーションルーム 1 電話:03-5465-8760

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩 2 分

内 容 詩論研究会「翻訳詩ーことば」



講師：石川重俊氏

<当日りリーフレットより>

日本近代の始まりの頃の外国語詩の翻訳者たちの訳詩は、訳詞としてその詩文を自らの国語で、パラフレーズ（paraphrase）を繰り返し行い、分析し、批評的に観察し、熟成して来たやま

とことばの中にその「ことば」を索めながら、検討に検討を重ね（推敲し）て文章に綴りました。その譯詩文はそれ自体が全く詩、そのものでした。（翻訳詩の文体、韻律、詩型についての議論より）

講師プロフィール

日本英文学界において「シェリー研究」の第一人者として知られる。その英文学者としての業績のみならず、日本詩人クラブ草創期の先輩たち、たとえば、豊田実、山宮允、正富江洋、斎藤勇、服部嘉香といった碩学にして詩人であった方たちの詩に学んだ。1915年、仙台市生まれ。九州帝大卒。福岡大学・大学院教授定年退職（1985年）後、シェリーの『縛りを解かれたプロミュークス』（1957年初版、岩波文庫）の改訳・改訂に着手、『鎖を解かれたプロメテウス』（岩波文庫）として2003年9月に改訂版を刊行。T・S・エリオット、P・B・シェリー、ダンテ研究は70年にもおよび、それを根底として英文学の研究を歩んでいる。



会場風景 30名ほどの人にお集まりいただきました

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年10月

2007 平成19年10月 オンライン作品研究会 担当理事：村山精二

日時 10月20日(土) 午前10時～21日(日) 午前10時

＊メーリングリスト登録会員・会友によるクローズドの研究会です。

以下の9作品が提出され、熱心な議論が行われました。

「雲を掴むハナシ」水崎野里子、「一人行く」斎藤幸雄、「ゴキブリ」くらもちさぶろう、「野良犬」サーカー和美、「雲」蒼 わたる、「タージマハール幻想」森井香衣、「そえぎ」芳賀稔幸、「蓮の花季」直原弘道、「コメディアン」長谷川 忍

2007 平成19年 10月詩の学校「世界の詩を愉しむ夕べ」—思潮とポエジーの共有をめざして 担当理事：谷口ちかえ

日 時 10月18日(木) 午後6時～8時

場 所 (中) 日本詩人クラブ事務所

内 容 ・開講式

・「反リアリズムの世紀—フランスを中心として」 講師：山田 直氏



狭い事務所に、多くの会員・会友外の受講者を含めた30名を超える人にお集まりいただきました。山田講師のお話しは、反リアリズムを唱えながらも、リアリズムにこだわったが一般的な思潮＝汎リアリズムが根底にあることを実証しながら説かれ、大変有意義なものでした。

2007 平成19年 10月例会 担当理事：川中子義勝

日 時 10月13日(土) 午後2時～5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス 学際交流ホール 電話:03-5454-6447

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

*学際交流ホールはアドミニストレーション棟3Fです（正門入りすぐ右の建物 学際交流ホール専用エレベータで3Fへ）

内 容 会員による詩の朗読と小スピーチ

宮尾壽里子氏 柳生じゅん子氏

シンポジウム「詩と平和」 コーディネーター：川中子義勝氏



パネリスト：左よりなんば・みちこ氏、長津功三良氏、石川逸子氏

* 詩人が詩を書く社会的意義、詩人が詩をとおしてどのように平和に貢献できるかをテーマに、その具体的な活動例や作品紹介等も組み入れて討議しました。



会場風景 60名を超える皆さまにおいでいただきました。

2007 平成19年10月 研究会 担当理事：原田道子 コーディネーター：関口裕昭

日 時 10月6日(土) 午後2時～5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス セミナールーム 電話:03-5790-5931

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内 容 詩論研究会「伊東静雄の詩と生涯」講師 饗庭孝男氏

参加費 会員・会友無料 会員外500円

<当日のリーフレットより>

私は伊東静雄について二度評論をかいている。

最初は、『ユリイカ』昭和47年10月刊「神なき詩の神学」中の伊東静雄「春の雪」と「夏のひかり」のあいだに、と題されたもの。

もう一つは、雑誌『あるとき』1979年3月号に、「伊東静雄」と単純に題したものである。

しかし、この2篇には内的な連関があって、前者ではロマン主義的なイロニーに基くものと詩人の前半を考え、後者では、それが日常の地平に屈折してゆく現場を詠んだものと考えた。むろん、ともに詩人と日常との痛切なまでのドラマが生じる。今回はしたがって、詩と日常のあいわたる点を明らかにしたいと思う。詩人の意識と自然と日常ともの属性とドラマをいかにして平明に読みとく、という点を明らかにしたい。

<講師プロフィール>

饗庭孝男（あえばたかお、1930年、大津市生まれ）

フランス文学者、文芸評論家。南山大学文学部フランス文学科卒業。現在、青山学院大学名誉教授。主な著書『幻想の都市－ヨーロッパ文化の重層的空間』、『ヨーロッパの古寺巡礼』、『小林

秀雄とその時代』、『知の歴史学』、『西行』、『芭蕉』など。2005年2月に新潮社から発行された『故郷の廃家』が好評を得ている。



講師：饗庭孝男氏



コーディネーター：関口裕昭氏



会場風景 研究会としては異例の、60名近い人が拝聴しました。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年11月

2007 平成19年11月 詩の学校「世界の詩を愉しむ夕べ」—思潮とポエジーの共有をめざして 担当理事：谷口ちかえ

日 時 11月15日(木) 午後6時～8時

場 所 (中) 日本詩人クラブ事務所

内 容 「穆旦 (ムダン) と丸山豊—ビルマでの彼我的戦い」 講師：秋吉久紀夫氏



ビルマ（現ミャンマー）の自然と歴史から始まり、日本軍のビルマ侵攻作戦と穆旦と丸山豊との関わり、現在のミャンマーの状況などを丁寧に解説していただきました。狭い事務所に30人近い人にお集まりいただき、質疑応答も活発でした。

2007 平成19年 11月例会 担当理事：川中子義勝

日 時 11月10日(土) 午後2時～5時

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス セミナールーム 電話:03-5790-5931

京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内 容 講演 自作とクロアチアを語る

講師：クロアチア詩人 ドラゴ・シュタンブク氏（駐日クロアチア共和国大使）



ドラゴ・シュタンブク氏



クロアチア共和国紹介
柴 宜弘氏（東京大学）



翻訳詩朗読・浅見洋子氏



会場風景 70名近い人が会場を埋め、質問も多く寄せられました。



懇親会会場にて。右は通訳の早川さん。
大使からクロアチアワインの差し入れがあり、楽しませていただきました。

講師略歴

Dr. Drago Stambuk

1950年クロアチア共和国ブラチ島セルカで生まれる。ザグレブの医科大学を卒業後、ザグレブ臨床医学センターにて内科を専攻し、併せて消化器病学、肝臓学を研究。その後、ロンドンで肝臓病の研究とAIDSの実験的治療に従事した。1991年から駐英クロアチア外交代表、1995年から駐インド クロアチア共和国大使、1998年から駐エジプト クロアチア共和国大使を歴任。2001年から2002年まで、ハーバード大学で特別研究員として国際問題を研究。2005年から駐日クロアチア共和国特命全権大使を勤める。

一方で1973年より創作活動を始め、約30冊に上る詩集を出版。英語・アラビア語に翻訳されたものもある。1991年には「クロアチア詩の祭典の会」を設立し、現在も理事を務める。美術、詩、文化、平和貢献など、多くの分野でクロアチア国内外の賞を受けている。

2007 平成19年11月 作品研究会 担当理事：原田道子

日時 11月3日(土) 午後2時～5時

* 2回目は2008年4月5日(土)午後2時～5時

場所 日本詩人クラブ事務所 電話 & Fax:03-6413-7245

講師 網谷厚子・禿 慶子・原田道子・村山精二

作品提出者と作品

花籠梯子「鬼は朝の食卓で」、結城文「ラジオ体操」、松本ミチ子「アオザイの街」、永井正雄(一般参加)「私が歌う」、水谷清「同じ時刻に」、梅澤鳳舞「あたし うめこ」、藤本浄子(一般参加)「食卓の伝説」、早藤 猛「道なかば」、越川泰臣「時計台」、未津きみ「帯千本展」(作品のみ)。



会場風景。講師、スタッフを含めた18名で、白熱した議論となりました。

講師プロフィール (1)所属 (2)著書 (3)詩的風土

★網谷厚子（あみたにあつこ）

(1) 「白亜紀」「地球」、日本現代詩人会、日本ペンクラブ他

(2) 詩集『天河譚 サンクチュアリ・アイラン下』『万里』等6冊。

研究書『平安朝文学の構造と解釈』

評論集『日本語の詩学 遊び、喩、多様なかたち』他

(3) 日本独自の風土への傾倒に基づくものや、現代生活における人間の悲哀を表現したものなど、幅広く、「散文詩」の形式で表現した作品が多い。

★禿 慶子（かむろけいこ）

(1) 日本文藝家協会。日本現代詩人会。横浜詩人会。所属誌なし。

(2) 詩集『彼岸人』『ジオラマ』『我が王国から』他。

(3) 同人制ではない詩誌「裸人」に毎号詩を発表しています。また、詩人の交流等について、伝統的に自由な横浜という詩の風土に在ることを幸せとおもっています。

★原田道子（はらだみちこ）

(1) 「鮫」「湖」「V o i d」、日本現代詩人会・日本文藝家協会・日本ペンクラブ他

(2) 詩集『うふじゅふ』『カイロスの風』など5冊。

エッセイ『遠い昔のお江戸から』『続・遠い昔のお江戸から』

(3) 「日本語びと」としての認識をもとに、個の日常（時々刻々変化する変なる現象）から、社会的文脈（不変なるなにか）に写し取るプロセスを手に入れた、人間が操る言語の土壌に関わる作品が多くなりつつある。

★村山精二（むらやませいじ）

(1) 横浜詩人会、日本ペンクラブ等

(2) 詩集『帰郷』『特別な朝』等

(3) 化学工学技術者としての観点からの詩想、肉親との死別体験などから人間を見る。

★作品研究会・投稿規定

作品1篇（本文40行以内 A4・1枚に印刷、あるいは手書きで）を開催日10日前までに、事務局・宮崎亨に送付。

(中)日本詩人クラブ例会・イベント 2007年11月

2007 平成19年12月 詩の学校「世界の詩を愉しむ夕べ」—思潮とポエジーの共有をめざして
担当理事：谷口ちかえ

日 時 12月20日(木) 午後6時～8時

場 所 (中) 日本詩人クラブ事務所

内 容 「メキシコ現代詩に見る西欧文明批判」 講師：細野豊氏



ノーベル文学賞受賞者で松尾芭蕉『奥の細道』スペイン語訳でも知られるのオクタビオ・パスを始め、パスの愛弟子アウレリオ・アシアイン、ポーランド王家の末裔で米国生まれメキシコ帰化のアンバル・パストなど、魅力あふれる詩人を擁するメキシコの西洋文明批判の歴史と現状が熱く語られました。写真は、身振りを交えて質問に答える講師。参加者は30名、狭い事務所が身動きできないほどでした。

2007 平成19年12月 国際交流・忘年会 担当理事：細野豊、谷口ちかえ、川中子義勝

日 時 12月8日(土) 国際交流：午後2時～ 忘年会：5時～

場 所 東京大学駒場Iキャンパス ファカルティハウス セミナールーム 電話:03-5790-5931
京王井の頭線「駒場東大前」下車、徒歩2分

内 容

国際交流講演「朗読と歌唱——言葉のリズムとメロディーについて」



ヘルマン・ゴチェフスキ氏（東大大学院准教授）



会場風景。100名を越える方にお集まりいただきました。

「国際交流の集い」のあとに、引き続いて同会場で忘年会が開かれました。



永年会員・比留間一成氏による乾杯！



遠隔地からおいでの方のご挨拶



アトラクションには、尺八の演奏があり、



合唱があり、



ヘルマン先生のピアノに合わせたコーラスがあり、楽しいひと時でした。

2007 平成19年12月 オンライン作品研究会 担当理事：原田道子、村山精二

日時 12月1日(土)午前10時～2日(日)午前10時

*インターネットのメーリングリストを使ったクローズド研究会です。

作品提出者と作品

斉藤幸雄「ギャンブラーと夏目雅子」、水崎野里子「影」、直原弘道「わが世紀」、北村愛子「人生の味」、蒼わたる「クリスタル」、芳賀稔幸「家内安全火の用心」、くらもちさぶろう

「ちず」、岡三沙子「優しい兄をめぐる三つの物語」、早藤猛「一輪の花」、サーカー和美「郷愁」、堀内みちこ「音楽のように」、琴天音「おさげ髪—カモシタ酒店の女主人に捧ぐ」、長谷川忍「サーカス」